

令和元年度

始良市若者議会 会議録

令和元年8月9日開会

令和元年8月9日閉会

始良市

令和元年度 始良市若者議会会議録目次

第1号（8月9日）（金曜日）

開 会	1
開 議	1
日程第1 会議録署名議員の指名	1
日程第2 会期の決定	1
日程第3 市長あいさつ	1
日程第4 一般質問	2
① 山田中学校 上木慧聖議員・北迫生海議員	2
湯元市長	3
小倉教育長	3
② 加治木中学校 吐師みのり議員・満塩浩史議員	6
湯元市長	6
③ 蒲生中学校 伊地知義人議員・佐藤琥天議員	10
湯元市長	10
④ 重富中学校 下渡承太郎議員・久永奈央議員	14
湯元市長	14
⑤ 帖佐中学校 本部優海議員・野村希咲議員	18
湯元市長	19
休 憩	
⑥ 加治木工業高等学校 窪田みなみ議員・濱弓場美来議員	22
湯元市長	23
⑦ 蒲生高等学校 森木麗二議員・中野竜空議員	25
湯元市長	26
小倉教育長	27
⑧ 加治木高等学校 小川翔大議員・小田すみれ議員	29
湯元市長	29

⑨ 龍桜高等学校 古川梨織議員・宮脇ななせ議員	32
湯元市長	32
教育長講評	35
市議会議長あいさつ	37
閉 会	38

令和元年度 始良市若者議会会期日程

自 8月9日
至 8月9日 (1日間)

月	日	曜	種 別	開議時刻	日 程
8月	9日	金	本会議	午前9時	会議録署名議員の指名 会期の決定 市長あいさつ 一般質問(18人) 教育長講評 市議会議長あいさつ

令和元年度 始良市若者議会議事日程

第1号

8月9日(金) 午前9時 開議

日 番	程 号	件 名
1		会議録署名議員の指名 中野 竜空 議員 森木 麗二 議員
2		会 期 の 決 定
3		市 長 あ い さ つ
4		一 般 質 問
5		教 育 長 講 評
6		市議会議長あいさつ

令和元年度 始良市若者議会

令和元年8月9日（金）	開会（議）	午前 9時00分
	閉会（議）	午後11時38分

出席議員 及 欠席議員	番号	氏名	出欠 の別	番号	氏名	出欠 の別	番号	氏名	出欠 の別
	出席議員 及 欠席議員	1	上木 彗聖	出	4	下渡 承太郎	出	7	森木 麗二
北迫 生海			出	久永 奈央		出	中野 竜空		出
2		吐師 みのり	出	5	本部 優海	出	8	小川 翔大	出
		満塩 浩史	出		野村 希咲	出		小田 すみれ	出
3		伊地知 義人	出	6	窪田 みなみ	出	9	古川 梨織	出
		佐藤 琥天	出		濱弓場 美来	出		宮脇 ななせ	出
出席 18人 欠席 0人									

本会議書記氏名	事務局長	谷山 浩	事務局次長	迫田 耕蔵
---------	------	------	-------	-------

説明のため の出席者の 職氏名	市長	湯元 敏浩	企画部長	宮田 昭二	教育部長	岩下 直司
	副市長	前 畠 実	市民生活 部長	福元 義行	水道事業 部長	水流 哲也
	教育長	小倉 寛恒	保健福祉 部長	竹下 晃	危機 管理監	庄村 幸輝
	総務部長	宮園 正浩	農林水産 部長	栢 良信	企画部 次長兼 企画政策 課長	松林 洋一
	加治木 総合支所長	草水 博行	建設部長	徳部 健一	企画部次 長兼商工 観光課長	原田 正巳
	蒲生総合 支所長	大山 勝範	消防長	米澤 照美	市民生活 部次長兼 男女共同 参画課長	吉永 恵子

説明のため の出席者の 職 氏 名	保健福祉 部次長兼 子ども政 策 課 長	鮫島美保子	農林水産 部次長兼 耕地課長	吉 田 孝	水道事業 部次長兼 管理課長	押領司 典子
	保健福祉 部次長兼 長寿・障害 福祉課長	野村 昭彦	教育部次 長兼学校 教育課長	小林 俊一郎	総務部財 政 課 長	堂路 温幸
	建設部次 長兼都市 計画課長	田代 信彦	教育部次 長兼保健 体育課長	塚田 佳明		

○議長（窪田みなみ君） ただ今から令和元年度始良市若者議会を**開会**いたします。
(午前9時00分開会)

○議長（窪田みなみ君） ただいま出席している議員は、18名全員です。

○議長（窪田みなみ君） これから 本日の会議を開きます。

○議長（窪田みなみ君） 本日の日程は、配付しています議事日程のとおりです。

○議長（窪田みなみ君） **日程第1、会議録署名議員の指名**を行います。

会議録署名議員は、議長において蒲生高等学校 中野竜空議員と森木麗二議員の2名を指名します。

○議長（窪田みなみ君） 次に、**日程第2、会期の決定**を議題とします。

お諮りします。

始良市若者議会の会期は、本日1日限りとしたいと思えます。

これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（窪田みなみ君） 異議なしと認めます。

よって、会期は本日1日限りと決定しました。

○議長（窪田みなみ君） 次に、**日程第3、湯元市長からごあいさつ**をいただきます。

○市長（湯元敏浩君） **登壇**

皆さん、おはようございます。

本日、若者議会を開催することになりました。若者議会の議員の皆様、御出席ありがとうございます。そして、本日を迎えるに当たり、これまでご協力、ご理解をしていただきました学校の先生方、そして保護者の皆様方、多大なるご尽力いただきましてまことにありがとうございます。心より感謝申し上げます。

若者議会は、ことしで3回目を迎えます。3回目といいましても議員の皆様方には、初めての経験だと思えます。若者らしい中学生、高校生らしい忌憚のないはつらつとした議論ができることを期待したいと思っております。

さて、沖縄のほうでは夏休みですけれども台風9号が、そして太平洋上では台風10号がということで今台風シーズンを迎えて、やはりこの災害に対する心構え、これが大切な時期になっております。鹿児島県、そして始良市も、6月末から7月中旬まで、大変な大雨に見舞われました。大切な2名の方の命が奪われるという甚大な災害が起きました。私ども始良市も、これまでの災害に対しての復

旧、そして調査も全力を挙げてやっております。そして、これからの台風シーズンに向けての防災もきちっとやれるように、しっかりとした心構えで臨もうと思っているところでございます。

冒頭申し上げましたが、3回を迎えるこの若者議会。皆さん方が、これをきっかけに政治への興味、そして自分たちが住んでいるところの社会システム、社会体制、これがどのように決まっていくのか、そういったものをぜひ経験していただき、そしてこれをきっかけに政治や、そして自分の身の回りの行政、こういったものに興味を抱いていただければと思います。18歳から投票権があります。皆さん方が投票することによって、世の中が皆さんを向いた政策が繰り広げられるということは間違いございません。ぜひともこの議会をきっかけに、全体の政治、そして選挙等々に興味を持っていただくよう期待を申し上げます。

きょうは、私たちも真摯にこたえていきたいと思っておりますので、ぜひとも実のある議論をやっていきましょう。よろしくお願い申し上げます。

○議長（窪田みなみ君） ありがとうございます。

次に、**日程第4、一般質問**を行います。18名の議員より通告がありました。順次発言を許します。

○議長（窪田みなみ君） まず、1番、山田中学校 上木慧聖議員、北迫生海議員の発言を許します。

○1番（上木慧聖君、北迫生海君） **登壇**

皆さん、おはようございます。1番 山田中学校 上木慧聖です。北迫生海です。

先に通告した「始良市への大学設置について」と「学校へのクーラー設置について」の2問について質問いたします。

まず、1問目の「始良市への大学設置について」、大学設置の計画案がどのように進んでいるのか具体的に教えてください。

2つ目は、大学設置にいくらお金がかかるか教えてください。

3つ目は、大学に入学する生徒が少なく、赤字になった時、誰が責任を取るのか教えてください。

次に、2問目の「学校へのクーラー設置について」です。始良市内の小・中学校へのクーラー設置工事が始まっています。これについて4つ質問させていただきます。

1つ目は、いつから利用できるようになるのですか。

2つ目は、設置にいくらかかりますか。どのような予算で設置されているのですか。

3つ目は、古い校舎にたくさんの穴を開けることとなります。校舎の耐震性は

大丈夫なのですか。

4つ目はクーラーを使い始めるとかなり電気代がかかると思います。どのような予算でまかなうのですか。各学校によって使える上限などが示されるのですか。

以上で演壇からの質問を終わります。

○市長（湯元敏浩君）

登壇

山田中学校3年 上木慧聖さんからいただいた「始良市への大学設置について」の1点目のご質問にお答えします。

大学設置に向けた取り組みは、平成30年7月に担当者を配置し、本年4月には計画を具体的かつ専門的に推進するため、企画部内に「高等教育機関企画課」を設置しました。これまでの間、公立大学などの現状分析を行うとともに、大学が地域にもたらす経済波及効果の測定調査の実施、文部科学省をはじめとした中央省庁との協議や先進自治体への研修視察などを行っています。

2点目のご質問にお答えします。大学設置に係る経費は、設置する学部、学科、規模、場所などを検討している段階で、具体的な経費は算定するに至っていませんが、設置に当たっては、始良市の財政状況を十分考慮しながら、財政シミュレーションなどの分析を行います。

3点目のご質問にお答えします。始良市では、15歳から24歳までの若者が多く転出しています。これは、市外の高校や大学などへの進学や、また、卒業後、就職などにより始良市を離れるためであります。地元で大学があれば、一度市外に転出した若者が地元に戻るきっかけになることや、地元で進学する可能性も大きくなります。さらに、始良市は県央に位置していることから、市外からの進学者も期待することができます。また、大学における「学部・学科」は、まさに大学の顔であり、未来を捉えた次代を担う「若者」の育成に重要な意味を持ちます。

これからの社会にどのような「若者」を育成するのかなど、社会の動向やニーズを十分に見据えながら、魅力ある大学について研究します。

○教育長（小倉寛恒君）

登壇

山田中学校3年 北迫生海さんからいただいた「学校へのクーラー設置について」の1点目のご質問にお答えします。クーラーの利用開始時期ですが、業者との契約では、設置工事の期間は9月20日までとなっていますので、その後に利用できる予定になります。ただし、現在、全国の学校で一斉にクーラーの設置工事が行われていることから、材料不足による工事の遅れが生じる学校が出てくる可能性もあります。

2点目のご質問にお答えします。クーラーは26の小・中学校及び幼稚園に設置することになります。全ての設置費用は、総額でおよそ14億7,000万円で、そのうち2億6,000万円が国からの補助金、残りの12億1,000万

円が地方債という始良市が今後、国に支払っていく借金になります。

3点目のご質問にお答えします。校舎は確かに古くなっていますが始良市内の全ての学校では、耐震補強工事が完了しています。今回のクーラー設置工事は、建物の構造を熟知した建築士が作成した設計書に基づいて進められ、工事方法としては、できる限り穴を開けず教室の窓の上部のガラス部分にアルミパネルをはめ込み、配管を貫通させ、本体を取り付ける方法をとっています。また、穴を開ける必要がある場合には、鉄筋の場所を調べる機械で確認したうえで安全に問題のないように行います。

4点目のご質問にお答えします。電気代は、皆様のご家族をはじめとする市民の方々に納めていただく税金でまかなうこととなります。クーラーの使い方を定めた使用マニュアルについては、今後、作成していきたいと考えています。

以上、お答えといたします。

○1番（上木誓聖君） 先ほどの答弁で、大学設置にかかわる経費は、設置する学部、学科、規模、場所などを検討しているとありましたが、設置する大学の学部、学科は、どのような学科をつくる予定ですか、教えてください。

○企画部長（宮田昭二君） お答えいたします。

根底にありますのは、市長答弁にもありますが、若者を地元にとどめるというのが一番でございまして、同時に人材の確保というのもございまして、将来にわたりまして、現在不足しております看護師の不足とか、介護士の不足とか、こういったのも頭の中にはございまして、しかし、本年4月に担当のセクションを設けております。担当の課を設けております。このことは、幅広く、その内容を精査していくという意味合いがあります。したがって、建築費の圧縮や学部の選定、そういったものを引き続き精査しながら、幅広く可能性を画策していきたいというふうに思っているところでございます。

以上でございます。

○1番（上木誓聖君） 3点目の質問の答えにありました、次代を担う「若者」の育成に重要な意味という文章がちょっとわからなかったもので、詳しく教えてもらえませんか。

○企画部長（宮田昭二君） お答えいたします。

現在、おかげさまで始良市におきましては、人口が県内で唯一伸びておりますけれども、それでも将来的に始良市といえども人口減に入っております。先ほど申しましたが、そのためには現在、市の弱いところでございます若者が市外県外に流出することを抑えなければなりません。そのために、そのための一策としてこの学校を考えているわけでございまして、その意味では魅力ある学部にしな

ければならないし、そのことによりまして、市が将来的にいい人材を抱えることができるというふうに思っているところでございます。

以上でございます。

○1番（北迫生海君） 設置費用は、総額でおよそ14億7,000万円。そのうち2億6,000万円が国からの補助金、残りの12億1,000万円が地方債という始良市が今後、国に支払っていく借金になると書いてありますが、大学設置に使われる費用やそのあたりのお金をこっちに回し、さらに、現存する山田小学校の体育館では雨漏りなどの不具合が起こっております。そのあたり現存する学校を改修、さらに発展させていくという方向で考えるというのはいかがでしょうか。

○教育部長（岩下直司君） ただいまのご質問にお答えいたします。

まず、予算を組むというときには、この予算を何に使うということが年度の初めに大体決められています。今議員がおっしゃったように、学校の体育館ですとか、いろんな場所でちょっと校舎が古くなったり、そういうことで、改修が必要とする場所があちこち発生してきているということもこちらのほうも承知しています。限られた予算の中で何を優先して取り組むかということが、予算の使い方では一番大切なことです。一番危険が生じるような箇所、そういったところを重点的に、特に学校関係ではけがをしない、そういった安全対策を考えて一番危険を及ぼすところから、最初に修繕に取り組んでいくということで考えております。

体育館の雨漏り、こういったところもありますので、そのあたりも必要な部分から修繕をやっていききたいというふうに考えています。

以上です。

○1番（北迫生海君） 3点目の質問で、鉄筋の場所を調べる機械で確認したということや建物の構造を熟知したなどとありますが、その調査書のようなものは、学校向けに配付されたりするのですか。

○教育部長（岩下直司君） まず、クーラーを設置するということは、もちろん校舎にある程度穴を通したり、配管を通すためにいろんなところをちょっと削ったりする場合があります。このことに関しましては、まず工事をする前に、建築士の方が安全面を考えて設計書をつくりましても、この設計書が学校に配付されているということではなくて、市の教育委員会の中に建築を担当する部署があります。そこの部署で設計書をいただいておりますので、あとは現場の作業をする事業者、工事業者の方とその設計書に基づきながら確認をして工事をしていくということになります。

もし、クーラーに不具合、あるいは校舎に不具合等が発生した場合には、また

その都度点検をしていくということになります。
以上です。

○1番（北迫生海君） これで質問を終わります。

○1番（上木慧聖君、北迫生海君） ありがとうございます。

○議長（窪田みなみ君） これで1番、山田中学校 上木慧聖議員、北迫生海議員の一般質問を終わります。

○議長（窪田みなみ君） 次に、2番、加治木中学校 吐師みのり議員、満塩浩史議員の発言を許します。

○2番（吐師みのり君、満塩浩史君） **登壇**

2番 加治木中学校 吐師みのりです。満塩浩史です。

私は、「子育て支援の環境整備について」質問します。今年度は、始良市総合戦略の最終年度ですが、5年間の目標である出生数3,260人と待機児童数0人は、達成されたのでしょうか。

私は、「安心・安全に暮らせる環境と交通基盤の整備」について質問します。先月豪雨がありましたが、そのときの対策について3点質問させてください。

1点目は、総合戦略の中にあつた災害に強い生活基盤とは何か。

2点目は、豪雨の時の対策の成果と課題について。

3点目は、防災に対しての自治体の現状と設備等災害環境への対策について。

以上、3点を教えてください。

これで演壇からの質問を終わります。

○市長（湯元敏浩君） **登壇**

加治木中学校3年 吐師みのりさんからいただいた「子育て支援の環境整備について」のご質問にお答えします。

まず、出生数については、来年3月までの出生累計数は、3,282人と予測しており、目標は達成されると考えています。

次に待機児童数ゼロについては、平成30年4月の待機児童は62人でしたが、今年の4月現在では95人に増えており目標達成は厳しいものと予想しています。

待機児童の解消には、保育所などの施設の数を増やすことと、そこに勤める保育士の人材確保が必要であると考えていますが、全国的に保育士の確保は、難しい問題となっています。現在、始良市は人口が増加しており、特に0歳から4歳までの子どもさんが非常に多く転入しているため、保育所などの整備状

況を転入者数が上回っているのが現状です。今後も状況を分析し、待機児童の解消に努めたいと考えています。

加治木中学校3年 満塩浩史さんからいただいた「安全・安心に暮らせる環境と交通基盤の整備」についての1点目のご質問にお答えします。

災害に強い生活基盤とは、市民への防災知識の普及・啓発活動、防災訓練などの実施、自主防災組織体制の整備、防災ボランティアの育成強化、要配慮者対策などを推進し、市民の防災意識の高揚と、対応力の強化を図ることであるとと考えています。

2点目のご質問にお答えします。

今回の大雨で、始良市で開設した指定避難所及び地域の方々により開設した自主避難所に多くの市民の皆様が避難されたことで、「自らの命は自ら守る」という防災基本の避難行動が適切に実施され、自助・共助の理解がなされたことが成果であると考えています。

課題としては、高齢者・障がい者・乳幼児・妊産婦・外国人などの要配慮者避難や、食料や物資提供などの防災対策があり、今後、計画的に推進を図っていきたいと考えています。

3点目の1番目と2番目のご質問につきましては、関連がありますので一括してお答えします。

始良市では、日頃の災害に対する備え、災害時に市民自らが身の安全を守る判断行動ができるように、防災行政無線、防災行政無線テレガイド、防災地域情報メール、SNS、コミュニティFMでの放送、防災ラジオなどの防災情報伝達の方法を整備し、迅速・的確な情報を伝えています。

さらに、避難所となる集会施設などの整備や災害の怖さを知り、災害時には冷静に行動できるための防災訓練や防災講座などを実施しています。

今後は、避難所に避難している人たちが防災情報を入手しやすいよう、避難所に指定されている公民館や体育館などにWi-Fi環境を整備していこうと考えています。

以上、お答えいたします。

○2番（吐師みのり君） 始良市の出生目標数は達成されると考えられているのに、対し、待機児童数が増加しているのは大きな問題であるにとらえました。

始良市では具体的にどのような対策をお考えでしょうか。回答をお願いします。

○保健福祉部長（竹下晃君） お答えいたします。確かにおっしゃるとおり、出生数と待機児童が増えてくるというのが非常に大きな問題だと思います。出生数につきましては、国の人口の少子高齢化、人口減少という大きな問題がありますので、とにかく出生数は増やさないといけないという大きな国の目標がありますので、ここはとりあえず達成したということなんですけれども、それに伴いまして、待機児童がふえてくるというのは確かに問題です。始良市としては、待機児童対

策については、まず、民間の保育所等も含めましての施設の充実と、あと受け入れ体制をちょっとお願いをしています。そこと連動してなんですけれども、施設の充実だけではなくて、保育士さんを確保しないと受け入れ態勢が整わないということもありますので、今、そこを民間の事業者等に一生懸命お願いをして施設の拡充をやっているところです。それと保育士の確保につきましては、さまざまな手を使いまして、いろんな形で広報しているところでございます。

以上です。

○2番（吐師みのり君） 回答ありがとうございました。始良市総合戦略の3の3番、具体的な施策（1）に、妊娠期から学童期までの切れ目のない健康支援と育児支援に取り組んでいくとありました。とてもすばらしい施策だと思いましたので、これからさらに安心して子育てができる住みよい魅力あるまち、始良市にしていくためにもぜひよろしくお願ひします。

○2番（満塩浩史君） 先ほどの回答で、これから避難所となる集会施設を整備するということでしたが、そのことについて一つ質問があります。先月の豪雨で私の家の近くの避難所、陶夢ランドが開設されました。しかし、そのため陶夢ランドに行くまでの道で道路が冠水していたり、土砂崩れが発生していました。加治木小学校も避難所となっていますが、陶夢ランドと同様ではないのですが、同じように川が流れていたりして避難しがたい状況となっています。その避難所となる集会施設をどのような基準で避難所に指定されているのですか。

○危機管理監（庄村幸輝君） お答えします。

避難所の設定ですが、まず、現在小学校とか中学校、そのような、公的な機関をまず基本として設定しております。そして、それに基づきまして、我々が調査に行きまして、そして大学の先生等をお願いいたしまして、その避難所が実際にいろんな災害があります。例えば、先ほどの大雨でありましたら、洪水に大丈夫な避難場であるか、そういうのを調査してもらいまして、そのあと、我々の防災会議というのがございます。その防災会議によりまして、この避難所が本当に大丈夫であるのか、避難所の防災会議の委員の方々に決定してもらおうということで、そのような避難所そして避難場所が設定されるということになっております。

以上でございます。

○2番（満塩浩史君） 避難する場合に、今回の豪雨のような場合、土砂崩れが起きていると避難ができません。また、予期せぬ地震の場合などは、建物が崩壊していたりして、避難がしにくいと思います。今回の豪雨の課題として、要配慮者の避難が課題だとおっしゃっていましたが、そういう場合に、普通の方々も含め、要配慮者の避難は難しいと思います。これをしやすくするために、どのようにし

ていくのですか。

○危機管理監（庄村幸輝君） 現在、要配慮者避難行動、その中で動けない方が2,700人ぐらい今現在、大体います。そういう方々を、こういう平時にどのようなにして、我々、公的機関が素早く被害、その災害があるもしくは災害のおそれがある場合において、そのような方々にはすぐにそういう避難行動要支援者を助けに行くシステムがありまして、そういう方々の名簿があります。その方々を常に我々はシステム上で確認はしているのですが、いざ災害になった場合に、我々公的機関がその避難行動要支援者、要配慮者、高齢者とかそういう障がい者の方々を助けに行くことが不可能な場合もありますので、平時からそういう方々においては、名簿を自治会の方とかそういう方々にお渡しして、「そういう方々が地域にたくさんいますよ」ということをお知らせするために、我々は現在そういう取り組みをしておりますので、もうしばらくお待ちいただきまして、そういう障がい者の方々から同意をいただきましたら、素早くそういう災害において助けに行けるように現在取り組んでおりますので、よろしくをお願いします。

以上です。

○2番（満塩浩史君） 最後に、今、自治会のほうに名簿を配付するということですが、やはり最終的には自治会の手助けが必要になると思います。そこで、総合戦略にもあるように、総合戦略の基本目標2の3のところに市民防災意識の向上、普及啓発を図り、想定外の災害も考慮した住民避難重視の施策を推進とあります。これをするために、始良市では地域、自治会などにおける防災のために地域では何に取り組むべきだと考えていますか。

○危機管理監（庄村幸輝君） お答えします。

地域の方々に一番にさせていただくのは、災害がどのような形で起きる、どのようにしてそういう地域の方々を助けていただく。まず自助、共助、公助という言葉があります。我々は、この先ほど申しました公助、公助の力で十分に皆様にお助けに行けるのが一番いいことなのでしょうけれども、実際の災害がありましたら、自助、共助で助けていただきます。その自助に関しましては、自分で自分の命を守る。そして共助、議員が仰せのとおりその共助に関しましては、我々が今、災害についていろんな勉強を、自治会等に行って講習会などを開いております。それが昨年度で申しますと、32回、約2,000人の方々にそういう講習会を開いております。また、消防本部では614回の3万6,000人ぐらいの方々にそういう防災、防火についての勉強会を開いておりますので、まず、その防火、防災についての勉強を地域の方々と一緒にしていきたいと思っております。

以上でございます。

○2番（満塩浩史君） 普通のことですが、自然災害がいつ起こるのかは誰にもわ

かりません。この若者議会を通して日ごろから地域での防災のための意識がとても大切だと改めて強く感じました。また、この防災のための意識を周囲の方や友達にも伝えていき、何人かだけでも防災の意識が高まればいいなと感じました。災害の時だけではなく普段から市民全員が協力し合い、毎日、安全安心に暮らすことができ、住んでよかったと思えるような、そんな始良市にしてくれるようにこれからもよろしくお願いします。

以上で質問を終わります。

○2番（吐師みのり君、満塩浩史君） ありがとうございます。

○議長（窪田みなみ君） これで2番、加治木中学校 吐師みのり議員、満塩浩史議員の一般質問を終わります。

○議長（窪田みなみ君） 次に、3番、蒲生中学校 伊地知義人議員、佐藤琥天議員の発言を許します。

○3番（伊地知義人君、佐藤琥天君） 登壇

皆さんおはようございます。3番、蒲生中学校の伊地知義人です。佐藤琥天です。先に通告した「大型商業施設のある中心部と周辺部のまちづくりについて」と「日本遺産認定後のまちづくりについて」の2問について、質問いたします。

まず、一つ目の「大型商業施設のある中心部と周辺部のまちづくりについて」です。イオンタウン始良ができて2年余りがたちます。蒲生からイオンタウンの方向に向かうと、交通量や人通りが多くなり、まちの活気を感じます。一方で、町の中心部から離れ、蒲生や西浦の様子を見ていくと、以前と変わらない状況があり、単なる通過点にすぎない現状もあります。町の中心部と周辺部のまちづくり、周辺部のバランスのとれたまちづくりの構想について市長のお考えを伺います。

次に、2問目の「日本遺産認定後のまちづくりについて」令和元年5月、蒲生にとって素晴らしいことが起きました。蒲生の武家門通りをはじめとする9つの文化財などが日本遺産に認定されました。僕もこのことを知ってうれしくなったし、誇らしくも感じました。僕たちは、総合的な学習の時間に地元のボランティアガイドの方々の協力をいただきながら、蒲生の歴史的な町並みについて学びました。そして、蒲生のことについて理解を深め、その良さを改めて感じました。

市長は、今回の日本遺産の認定を受けて、そのことをどのようにまちづくりに生かしていこうと考えているのか教えてください。

以上で、演壇からの質問を終わります。

○市長（湯元敏浩君） 登壇

蒲生中学校3年 伊地知義人さんからいただいた「大型商業施設のある中心部と周辺部のまちづくりについて」のご質問にお答えします。始良市内のそれぞれの地域には、その地域が持つ特性があると考えています。したがって、中心市街地と周辺部は、おのずとその有りようも違ってきます。蒲生地域は、始良市の観光の中心で、落ち着いた雰囲気があり、まさに「日本遺産」と呼ぶにふさわしい風情を持っています。

一方、イオンタウン始良のある中心地域は、若い世代の方々に賑わう地域であります。これらの地域特性は、長い時間をかけてそこに住む人々により作り出されたものであり、今後とも、受け継がれるべきものであります。始良市としては、その地域特性を尊重しながら、その地域に合った活性化と暮らしやすさの提供に向けた取り組みを進めていきます。また、まちづくりの構想に当たって、蒲生地域には、大クスや特に西浦地区には掛橋坂など、ほかの地域にはない観光資源がありますので、これらを活かし交流人口の増加を図り、それを定住につなげられる構想を描く必要があると考えています。今後も校区コミュニティ協議会などと連携しながら、地域特性を生かし、市全体としてバランスのとれたまちづくりに努めます。

蒲生中学校3年、佐藤琥天さんからいただいた「日本遺産認定後のまちづくりについて」のご質問にお答えします。日本遺産は、2020年の東京オリンピック開催に合わせて、国内外からの観光客を各地に呼び込む受け皿として文化庁が官公庁などと連携して、平成27年度から認定しているものです。日本遺産の特徴は、個々の文化や自然を認定する世界遺産と違い、我が国の古き文化や伝統が存在する地域において、その魅力や特色をストーリー化したものを認定するという点であります。鹿児島県では、日本遺産の候補として薩摩藩特有の外城制度によって築かれた「鹿児島の麓」を掲げ、武家屋敷をもつ県内9つの市とともに、“薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群「麓」を歩く～”のタイトルでストーリーを築き上げ、本年5月20日に、日本遺産認定となりました。

始良市では、御仮屋門を中心とする麓の町割りが残る蒲生地区が選ばれていますが、そのストーリーでは「蒲生麓」のほか「蒲生御仮屋門」、「御仮屋犬槇」、「蒲生八幡神社」、「蒲生のクス」、「蒲生城跡」、「太鼓踊り」、「蒲生の紙漉き」、「掛橋坂」の計9つが、日本遺産を形成する構成文化財となっています。

始良市としては、日本遺産認定を受けて、今後、「蒲生麓」を観光PRの発信地として、構成文化財の保持に努める一方、地元住民の理解と民間団体の協力を得ながら、観光振興はもちろんのこと、その後の活気あるまちづくりにつながる有効的な手段を探っていきたいと考えています。

地元中・高生の皆さんにも、その一役を担っていただけることを、大いに期待しています。

しかし、日本遺産の整備と活用において、始良市が独自に事業展開するだけでなく、今回のタイトルのように、鹿児島県と9つの市が一体となった取り組

みが必要となります。

今後は、日本遺産の魅力を伝えられる施策を講じて、「蒲生麓」と「鹿児島麓」をPRできる広域的事業を展開しようと考えています。

以上、お答えいたします。

○3番（伊地知義人君） 答弁の中でありました定住につなげられる構想ですが、私が住む蒲生地区では、観光資源が豊富ではありますが、一方で生活する上では日用品を購入するための商業施設や医療機関、特に小児科の整備があまり進んでいません。ぜひ、蒲生地区にもそういった施設を誘致していただけると蒲生地区の定住にもつなげられるのではないかと思いますので、そういった面で、定住につなげられるような具体的な対策があれば教えてください。

○企画部次長兼企画政策課長（松林洋一君） 確かに地域によって不足する物といったものはあるというふうに考えているところでございます。市といたしましては、中山間地域に多くの方に移住してもらいたいといったような意味合いから中山間地域、いわゆる田舎暮らしをサポートするという意味で、移住定住のための補助金といったようなことも行いながら、人の流れを生み出したいということでそのような施策を行っているところでございます。また、商業施設の関係につきましてもはですね、空き店舗を活用した事業といったようなものを市としてメニューとして準備をいたしているところでございますので、そんなものをご活用いただければなということ考えているところでございます。

以上でございます。

○3番（伊地知義人君） 大変丁寧なご回答をいただき、よく理解できました。ありがとうございます。答弁の中でありました校区コミュニティ協議会とありますが、具体的にどういったことをするのか教えてください。

○企画部長（宮田昭二君） お答えいたします。

いわゆる市内にございます、17の小学校、この校区におきまして作っている組織でございます。先ほどの質問でもありましたが、自治会等の活動をサポートするためにできた組織でございます。広く自治会同士のつながりを持ったうえで、校区内のつながりを持たしていくという組織でありまして、結成から3年、4年目を迎えておりますが、順調にそれぞれ動いております。先ほどありました防災、それから地域のつながり活動、それからそういったものにつながることに活動しておりまして、先進的な活動をしているところもございます。

以上でございます。

○3番（伊地知義人君） 校区コミュニティ協議会についてよく理解できました。

最後に、答弁の中でありました地域特性は、長い時間をかけて、そこに住む人々によりつくり出されたものであり、今後とも受け継がれるべきものでありますとありましたが、蒲生地区にある地域行事で太鼓踊りなどがありますが、最近、そういった行事に、参加する人が年々少なく、受け継ぎやすい環境がだんだん失われている気がしますが、そういった面ではどういうふうに対策していこうと考えていますか。

○企画部長（宮田昭二君） お答えいたします。

やはりそういった伝統行事をどのように保存していくか、そういうのも大事なことでございますし、それを担っていただけるのが今皆さんがた若い世代であると思っております。そのためには、合併して市が今10年たっておりますけれども、変えていくべきもの、これもございます。しかしながら、変えてはいけないもの、これもあると思います。それがそういった昔からあります行事等でございますので、そこらはですね、市としまして、いろんな側面から補助して育成していきたいというふうにご考えておるところでございます。

以上でございます。

○3番（佐藤琥天君） 答弁の中で、活気あるまちづくりにつながる有効的な手段を探っていきたいと述べていますが、今考えている具体的な案があれば教えてください。

○企画部次長兼商工観光課長（原田正巳君） この件につきましては、始良市の蒲生麓というところが、いわゆる日本遺産の一部に認定されているわけでございますので、今現在、蒲生にお住まいの方々にまちづくり地域おこしに頑張ってもらっている方がいらっしゃいます。ご存じかと思えますけど、「L a b（ラボ）蒲生郷」とか「蒲生郷おかべ会」とかございます。そういった方々は、いわゆる蒲生を元気にするためにいろんな活動しておられます。今現在、日本遺産を受けまして、こういった方々と一緒になりまして蒲生の町をどういった形で外に発信して、そして観光客、いわゆるお客様を呼び込んで蒲生を活気づけるのかということは今、月1回ペースでお集まりいただいて話を進めているところでございますので、また近いうちに、皆様方のほうにも具体的なプランを示すことができるのではないかと考えております。

以上でございます。

○3番（佐藤琥天君） 今、蒲生を元気にするために、多くの蒲生町の方々が頑張っているのので、僕もその方々に積極的に参加し、協力してまちづくりを行っていきたいと思います。ありがとうございました。

○3番（伊地知義人君） 僕たちも始良市にこれからずっといるので、良市の政治などに興味を持っていきたいと思います。

これで質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（窪田みなみ君） これですべて3番、蒲生中学校 伊地知義人議員、佐藤琥天議員の一般質問を終わります。

○議長（窪田みなみ君） 次に、4番、重富中学校 下渡承太郎議員、久永奈央議員の発言を許します。

○4番（下渡承太郎君、久永奈央君） 登壇

皆さん、おはようございます。4番 重富中学校の下渡承太郎です。久永奈央です。

さきに通告した「重富海岸について」と、「大雨の被害報告について」の2問について質問いたします。まず、1番目の「重富海岸について」です。重富海岸は、国立公園に認定されていますが、これから観光地としてどのように開発していくのでしょうか。

次に、2問目の「大雨の被害報告について」です。7月の中旬に始良市に大雨が降り、多くの被害が出ました。被害がどんな場所で多く出たのかを知ることは、これからの災害に対する備えにも大きくかかわってくると思います。その被害は、どの地区でどのくらいの被害が出たのか。また、どのような方法で被害の状況を公表するのか、知りたいと思います。

以上で演壇からの質問を終わります。

○市長（湯元敏浩君） 登壇

重富中学校3年 下渡承太郎さんからいただいた「重富海岸について」のご質問にお答えします。国立公園は、次の世代も現在の私たちと同じ感動を味わい楽しむことができるように、すぐれた自然を守り、後世に伝えていくべき場所で、そのために国が指定し保護し管理するという役割を担っています。重富海岸はおよそ600本の松林や干潮時には600メートルほど先まで延びる錦江湾最大の干潟など貴重な自然景観が残されており、四季を問わず、地元の方々はもちろん、市内外からも多くの来訪者がある憩いの場でもあります。また、敷地内にある「重富海岸自然ふれあい館なぎさミュージアム」では、自然や生態系についての知識を深めたり、レクリエーション目的で自然と触れ合ったりできる体験型メニューなど多様なプログラムが準備されています。重富海岸は、国立公園であることから自然公園法などにより、開発行為や利用に係る規制を受けていますが、始良市では、重富海岸を重要な観光地の一つに位置づけて、これまで駐車場の整備や、多言語対応看板の設置、Wi-Fi環境の整備などを行い、利便性の向上を図っ

ています。

なお、維持管理は地元の住民や小中学生など、多くのボランティア協力をいただき、錦江湾クリーンアップ作戦などに取り組み、自然環境を保全するための努力をしています。今後も、始良市観光協会や近隣自治体と連携したウォーキングイベントや体験型イベントの開催を通じて、国立公園重富海岸の魅力を発信していきます。

重富中学校3年久永奈央さんからいただいた「大雨の被害報告について」のご質問にお答えします。6月末からの大雨による人的被害は幸いにありませんでしたが、累計雨量が800ミリを超える地点もあり、床上浸水が始良地区で1か所、床下浸水が始良地区で3か所、加治木地区で2か所、また、国道10号九州自動車道の全面通行止めやJR日豊本線の運転見合わせなどもあり、市民の日常生活に多大な影響を及ぼしました。さらに、土砂崩れや冠水などの被害も多く報告されており、現在、調査・復旧に全力で取り組んでいます。被害状況の公表方法は鹿児島県への定時報告や県からの問い合わせなどに随時報告することにより、県総合防災システムと連動し、その情報が報道機関に提供され、テレビの字幕などに反映される仕組みとなっています。また、県のホームページにも各地から集約された災害関連情報があわせて公表される仕組みとなっています。

以上お答えといたします。

○4番（下渡承太郎君） 丁寧な答弁ありがとうございました。私たち始良市民は、重富海岸に行くとなったら、道は調べずに簡単に行くことができると思うんですけど、市外や県外から来てくださった観光客だったら、重富海岸に行くための道がとても今わかりづらい状態になっていると思います。これから国道から重富海岸の駐車場までどのように整備開発をしていくのかを詳しく教えてもらいたいと思います。お願いします。

○企画部次長兼商工観光課長（原田正巳君） お答えします。

現在、道路網に関しましては、現状のままで走っておりますけど、実は一昨年でございます、重富海岸までのアクセスなかなかわかりにくい、今議員仰せのとおりでございますけど、一昨年に重富海岸に至るまで国道から7か所に看板を設置いたしまして、いわゆる今に申し上げますところの絵が入ったピクト入りの看板でございます。重富海岸まで導く形で、それぞれの街角に看板を7か所立てておりますので、今のところは、行くに当たっては、支障ないのかなということは考えているところでございます。

○4番（下渡承太郎君） 答弁ありがとうございました。

次に、先ほどの答弁であったボランティアやクリーンアップ作戦を実施しているとありますが、このクリーンアップ作戦等を実施することで、ごみは年々減少

傾向にあるのでしょうか。お願いします。

○企画部次長兼企画政策課長（松林洋一君） お尋ねの錦江湾クリーンアップ作戦、これは年に2回行っております。ことしもですね、夏の部ということで一回行っているのですが、その際、ちょっと雨の状況にもかかわらずですね、かなり多くの方がみえられました。ごみの量とか分析したりしておりますが、年々少なくなっている状況ということでは認識しておるところでございます。その量については、今ちょっと手元に資料ございませんが、年々量は減っているということで認識しております。

以上です。

○4番（下渡承太郎君） 答弁、ありがとうございました。

次に、先ほどの答弁であった重富海岸自然ふれあい館なぎさミュージアムで多様なプログラムが準備されているとありましたが、そのことを多くの人々に知ってもらうためにどのような活動をしていますか。お答えをお願いします。

○企画部次長兼商工観光課長（原田正巳君） お答えします。

なぎさミュージアムNPO法人の「くすの木自然館」というところが、施設管理を行っております。国の施設でございますけど、さまざまな体験型イベントを行っております。例えば、先ほど答弁にございました干潟、砂浜から600メートル先まで時期によっては干潟があらわれますけれども、そういったところで生き物、生態系を観察する体験とか、あるいはSUPボード、そういったところを体験する。あと、ウェーダーウォークといいまして腰まで海に浸かりまして、そして海を散策する、そういったイベントをやっている施設でございます。そういったところで、今、鹿児島県内で言うところの錦江湾を取り巻く自治体で湾奥会議というのをつくっております。そういうところと一緒にしまして、海岸域を使ったところのいわゆるPR活動を行っているところでございまして、当然のごとく、このなぎさミュージアムのほうもその一環に入っておりますので、今のところ、湾奥を伴うところの自治体と一緒にPRをしているところでございます。

○4番（下渡承太郎君） 答弁ありがとうございました。

先ほどの答弁であった約600本の松林があるとのことでしたが、全ての松林を管理することはできているのでしょうか。お願いします。

○企画部次長兼商工観光課長（原田正巳君） お答えします。

松に関しましては、松くい虫という厄介ないわゆる生き物がおります。一遍、この虫にやられますと、大変腐食が早い段階で進んでいきますので、今、市とし

ましては、年次計画をもって毎年、100本前後の松の木にいわゆる樹下、幹のところに薬剤注入しまして、そして元気にさせる作業を行っております、これが大体効果が六、七年もつかということでございますので、今600本でございますので、毎年、毎年行っていくところは、今、現状維持はしているところでございます。

以上でございます。

○4番（下渡承太郎君） 答弁してくださった方々、ありがとうございました。

おかげで重富海岸について、より理解を深めることができました。これから私自身も積極的にボランティア活動などに参加して、きれいな重富海岸を後世に残していきたいです。そして国立公園重富海岸として、市内外や県外にも魅力を発信できるように、これからもよろしくお願いします。

○4番（久永奈央君） 先ほどの答弁では、被害状況は、問い合わせやホームページなどで公表されるということでしたが、高齢者の方などは、ネットはあまり使われなと思うので、情報が市民へ浸透するのに時間がかかってしまうのではないのでしょうか。そこはどのような対策をしているのかお尋ねします。

○危機管理監（庄村幸輝君） お答えします。

現在、始良市の防災情報伝達手段といたしまして、防災行政無線、屋外拡声局そういった戸別受信機、そして電話で聞けるテレガイド、そしてコミュニティFMのあいらびゅーFMではラジオ、そしてうちの市では防災ラジオの配布に現在取り組んでおります。高齢者の方々にも、現在、この防災ラジオの配布をということで進めているところでございます。今回の6月からの大雨に関しましてこの大雨の時期に、この防災ラジオがかなり発揮したということで、いつもより多くの方々が注文をしに庁舎のほうにこられましたので、今後もこの防災ラジオを多く市民の方々に配布できましたらと思っております。

以上でございます。

○4番（久永奈央君） ラジオなどでの情報公開が、健常者の方にはすごくわかりやすいと思うのですが、視覚や聴覚などの障害を持っている方の情報公開はどのようにされていますか。

○危機管理監（庄村幸輝君） お答えします。

先ほどの議員にも答弁しましたように、現在、当市におきましては避難行動要支援者の方々が約2,700人いらっしゃいます。その方々におきましての情報というのはやはり自助、共助、そして今は「近助」という言葉がございますので、近くの自治会の方々、皆さん方議員の方々におきまして、こういう災害が起き

る、災害の発生のおそれがある場合にはですね、素早く走って行っていただいて、「こういう情報が流れていますよ。」というような形でもお伝えいただければと思っております。なお、市としましては、やはり防災行政無線、現在聞き取りにくいというお話もありますが、先ほどから申しますように、防災ラジオ、耳で聞く情報、そして耳の不自由な方々には目で見える情報、こちらのほうも、防災、地域情報メール、もしくはツイッター、緊急速報メール、そしてケーブルテレビなど、ふだんのテレビなどのテロップなどを見ていただいて、そういう障がい者の方々にも「危ないよ」というふうに議員の方々もお伝え願えればと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○4番（久永奈央君） 始良市の防災に対する取り組みなどがよくわかりました。誰にとってもわかりやすく、今後に生かせる情報公開がされるよう要望します。これで質問を終わります。

○4番（下渡承太郎君） 若者議会という貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。この経験をこれからの学校生活に生かしていきたいと思っております。これで4番、重富中学校からの質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（窪田みなみ君） これで4番、重富中学校 下渡承太郎議員、久永奈央議員の一般質問を終わります。

○議長（窪田みなみ君） 次に、5番、帖佐中学校 本部優海議員、野村希咲議員の発言を許します。

○5番（本部優海君、野村希咲君） **登壇**

帖佐中学校3年 本部優海です。野村希咲です。

先に通告した「魅力的な生活空間の整備について」始良市の小・中学校において地震が発生する前にいち早く知らせる緊急地震速報の機械類の設置が必要なのではないのでしょうか。具体策の中に、災害に強い生活基盤の整備とあるので検討してほしいと思います。実際に地震が起こる前に生徒が自主的に動いて行動し、身の安全の確保するためにも検討してほしいと思います。ちなみに放送での知らせは聞こえにくいので改善する必要があります。

次に、「子育てを支援するための環境整備について」です。現在、少子高齢化が進んでいて、子供の人数が減っています。このことから、始良市では、5年間の目標出生数3,260人と定めています。しかし、そうなると待機児童数の増加につながると思います。どのような対策をとるのですか。

以上で演壇からの質問を終わります。

○市長（湯元敏浩君）

登壇

帖佐中学校3年 本部優海さんからいただいた「魅力的な生活空間の整備について」のご質問にお答えします。

緊急地震速報を伝達する手段としては、全国瞬時警報システム、いわゆる「Jアラート」を活用しています。

「Jアラート」は、弾道ミサイル情報、津波警報、緊急地震速報など、対処に時間的余裕のない事態に関する情報を、人工衛星及び地上回線を用いて国から送信し、市町村の防災行政無線などを自動起動することにより、国民に緊急情報を瞬時に伝達するシステムです。

始良市では「Jアラート」が起動したときは、防災行政無線、防災ラジオ、防災地域情報メール、緊急速報メールなど、さまざまな手段で緊急情報を伝達することになっています。

帖佐中学校周辺では、帖佐中学校内、帖佐グラウンド内、みさと台公園などに設置してある始良市防災行政無線の屋外拡声子局を多方面から活用したいと考えています。

また、市内の幼稚園、保育所、小学校、中学校、高校には全て「Jアラート」と連動する機能を持った防災ラジオを配布していますので、先生方と連携して校内放送などで地震速報を伝達していただけたらと考えています。

帖佐中学校3年 野村希咲さんからいただいた「子育てを支援するための環境整備について」のご質問にお答えします。

始良市における出生数は、来年3月までの出生累計数で3,282人と予測しています。現在、始良市は人口が増加しており、特に0歳から4歳までの子どもさんが非常に多く転入している傾向にあります。この出生数や転入による人口の増加が、保育所などの整備状況を上回っているのが現状で、平成30年4月の待機児童は62人でしたが、今年4月現在では95人に増えています。待機児童の解消には、保育所などの施設の数を増やすことと、そこに勤める保育士の人材確保が必要であると考えていることから、私立保育所の受入数の拡大をお願いして保育者数の増加を図っています。

保育士の人材確保については、携帯アプリのラインを活用したホイクスラインや、ハローワークの保育士求人情報などで情報発信しています。

また、保育所と合同で保育士の面接・説明会を開催しています。

その他にも、国・県の補助を受けながら、保育士の給料を増やすための費用を保育所へ補助する事業などを行っています。

以上、お答えといたします。

○5番（本部優海君） 答弁書の中に防災ラジオを配布、小学校、中学校、高校には防災ラジオ配布していますので、先生方と連携して校内放送などで地震を伝達していただけたらと考えていますというものがあります。それでは、防災ラジオ

というのは、学校のどこに設置されるのですか。

○危機管理監（庄村幸輝君） お答えします。

各小中高、幼稚園、保育所のラジオの設置場所。まず、そのラジオの受信する場所なのですが、各事業所にまず、「その受信状態のいいところに設置してください」というふうに伝えてあります。そして、当然FMですので「アンテナを一番上に持ち上げて、そのラジオが一番受信しやすい場所に先生方に設置してください、そして電源確保をしっかりと、電池、そして家庭電源の100ボルトの電源に必ず設置するようにしてください。そうするとFMが受信できるようになっております。」ということで、学校側には説明しておりますので、防災ラジオの設置してある場所は、それぞれ学校の先生方をお願いしておりますので、議員の皆様方も、先生にお尋ねになりまして、防災ラジオがある場所、もしくは先ほど私が申しました場所と違う場所に設定してありましたら、先生に「ここの場所は受信できない場所ではないでしょうか。」というふうにお尋ねください。現在、年6回ですね。緊急速報の試験もやっておりますので、その時には必ずそのラジオが鳴ってそういう試験にに応じているかというのも、再度確認していただければなど思っております。

以上でございます。

○5番（本部優海君） 防災ラジオは、小学校、中学校、高校に配布されるというのはわかりました。配布される個数は何個ですか。

○危機管理監（庄村幸輝君） お答えします。

現在、各学校等には1個ずつ設定してあります。学校によりましては、先ほども議員にもお答えしましたように、防災行政無線の中に、ラッパから聞こえる部分と、戸別受信機という加治木地区の学校にはそれを設置してあります。その近くにはほぼ防災ラジオも設置してあると思っておりますので、確認してください。防災ラジオは現在のところ1個設置しております。

以上でございます。

○5番（本部優海君） 防災ラジオが1個っていうことは、例えば帖佐中学校に1個設置された場合、その防災ラジオは緊急地震速報が伝えられたときに、その音は帖佐中学校校内全体に伝わるのですか。それとも設置されている場所の中の範囲だけしか聞こえないのですか、どちらでしょうか。

○危機管理監（庄村幸輝君） お答えします。

防災ラジオの範囲は、そこにいる職員の先生方が必ず設置するようにしてあります。先ほども市長答弁にもありましたとおり、緊急地震速報が鳴った場合、こ

のほかに議員の皆様方は、携帯電話等は授業中はお持ちでない。学校の先生方もお持ちではないと思います。ただし、教室には、その携帯電話もあると思いますので、防災ラジオと併せて現在、緊急速報メールが鳴るようになっておりますので、その音を感じましたら、日ごろから、その訓練を議員の皆様方も実施していただきたいと思っております。

以上でございます。

○5番（本部優海君） 地震速報のところで防災ラジオは、その範囲だけしか聞こえないということでした。帖佐中学校の避難訓練では、学校の校長または教頭先生が、地震が発生した後に校内放送を呼びかけて、机の下に隠れさせたりしています。そして、防災ラジオが、もし校内に流れるように設定してくれれば僕たちは緊急地震速報が流れたときに、その音を感じて地震が来るんだと、そう感じ机の下に隠れていることができます。これは生徒が自主的に行動して、災害に強い生徒を育成するだけでなく学校全体で被害者、しかも始良市、全体の中学校、小学校、高校の生徒が災害による被害を少なくすることができます。実際にその防災ラジオがその範囲以内だけしか聞こえないっていうことは、その範囲の人だけが聞こえて、あとの他のクラスの生徒たちは聞こえないので、学校に防災ラジオの音が伝わるような、そういう設定はできないものなのでしょうか。

○危機管理監（庄村幸輝君） お答えします。

先ほども申しましたとおり、防災ラジオが鳴る、緊急速報が鳴る、そこらは議員の皆様方と、先生方との学校との訓練を日ごろから常にしていただきたいと思いますが、昨年度、小・中学校の校内放送設備の防災無線連携ってということで、我々もメーカーと協議した経緯があります。管内の小・中学校におきまして8校のみがですね、そういう校内のスピーカー、ただ、防災行政無線を鳴らしてする仕組み、これも全国的にやっていることなのですが、それには8校しか応じないスピーカーでございました。ただ、それに関しましては、当然予算が生じますので、今後、関係教育部と協議してまいりたいと思います。

以上でございます。

○5番（野村希咲君） 先ほどの答弁の中で、待機児童の解消には保育所などの施設の数を増やすこととありますが、どこに保育所を建てるのか具体的な案はありますか。

○保健福祉部長（竹下 晃君） お答えいたします。

どこに保育所を建てるのかということですが、現在、市では新しい保育所をつくるという予定はありませんけれども、この答弁書に書いていますとおり私立の保育所の事業所さんに施設の拡充をしていただくということをお願いして

いるところでございます。

以上です。

○5番（野村希咲君） 丁寧なご回答ありがとうございました。始良市の待機児童解消のために保育所施設の数をつややすことや保育士の人材確保の取り組みを行っているということがよくわかりました。子供から高齢者まで住みやすい始良になるようこれからもよろしくお願いします。

以上で質問を終わります。

○5番（本部優海君、野村希咲君） ありがとうございました。

○議長（窪田みなみ君） これで5番、帖佐中学校 本部優海議員、野村希咲議員の一般質問を終わります。

○議長（窪田みなみ君） ここでしばらく休憩します。10分間程度とします。

なお、後半は議長を交代し、本部議長が会議の進行をおこないます。

（午前10時23分休憩）

○議長（本部優海君） 議長を交代しました。休憩前に引き続き、会議を開きます。

（午前10時32分開議）

○議長（本部優海君） 一般質問を続けます。加治木工業高校 窪田みなみ議員、濱弓場美来議員の発言を許します。

○6番（窪田みなみ君、濱弓場美来君） **登壇**

6番 加治木工業高校の窪田みなみです。濱弓場美来です。

先に通告した「始良市に工業の職種を増やして欲しい」と、「待機児童対策について」の2問について質問いたします。

まず、「始良市に工業の職種を増やしてほしい」との質問ですが、私たちは工業出身なので、始良市で働きやすい職種をつやして欲しいと考えています。工業高校で学んだ専門の職種が少なく、地元に戻元することができないので、それに対してどのような対策をしているかお尋ねします。

次の2問目ですが、「待機児童対策について」の質問ですが、待機児童がまだ多くあります。減らすための保育所などの増設、職員をつややすなどの具体的な案があれば教えていただきたいです。共働きが多くなっている中で出産とともに仕事をやめなければならない状況を少しでも減らすために始良市としての考えを聞きたいです。

以上で、演壇からの質問を終わります。

○市長（湯元敏浩君）

登壇

加治木工業高等学校3年 窪田みなみさんからいただいた「始良市に工業の職種を増やして欲しい」についてのご質問にお答えします。

始良市では、これまで27社の企業と立地協定を締結しています。そして、企業側では、新たな工場や設備の新設・増設など、生産規模の拡大を図ったことにより、新たな雇用も生まれています。その一方、各企業では、働く人材の確保に苦慮している現状にあることから、始良市では、市内の高等学校に出向いた合同企業説明会や、市内企業との協働による求人説明会を開催するなど、若者の地元就職に繋がる方策を講じています。今後、新たな取り組みとして、若い世代のみなさんが望まれる職種などの意識調査を実施する予定です。その結果を踏まえて、多くの若者が、地元で就職できる企業の誘致などに力を注いでいきたいと考えています。そして、県央に位置している地理的優位性が評価されている流通系の企業に加え、工業系を中心とした新たな企業誘致に関しましても、鋭意努力していきます。

加治木工業高等学校3年 濱弓場美来さんからいただいた「待機児童対策について」のご質問にお答えします。

待機児童を減らすために始良市立の保育所などを増やす対策はとっておりませんが、国からの補助を活用し、私立の保育施設は、平成30年度と比べると、5事業所、受入れ人数は100人程度増えています。

次に、職員を増やす、つまり保育士の人材確保については、携帯アプリのラインを活用したホイクスラインや、ハローワークの保育士求人情報などで情報発信しています。

また、保育所と合同で保育士の面接・説明会を開催しています。

その他にも、国・県の補助を受けながら、保育士の給料を増やすための費用を保育所へ補助する事業などを行っています。

次に、働く女性が妊娠・出産・育児をきっかけに、職場で精神的・肉体的な嫌がらせを受けたり、それらを理由とした解雇や雇い止め、自主退職の強要など、不利益になることや、不当な扱いをすることは法令などで禁止されています。

始良市では関係機関・関係団体などに、諸制度の情報提供や啓発などに努めています。

以上、お答えといたします。

○6番（窪田みなみ君） 1問目の質問に対してなのですが、市内の高等学校に出向いた合同企業説明会や市内企業との共同による求人説明会を開催しているみたいですが、加治木工業高校で行われている企業説明会には、あまり始良市にある企業の方たちは説明会には来ません。そこで、始良市にある企業の説明会を、高校で実施するという取り組みは考えていますか。

○企画部長（宮田昭二君） お答えいたします。

現在、市内にごございます蒲生高校、それから加治木工業におきまして合同の企業説明会、それから求人説明会を行っております。ただ加治木工業につきましては、県が主催します催しでございますので、市としましては、学校の協力が得られるならば、蒲生高校と同様に市独自の説明会というのも考えていきたいとこのように考えます。

以上でございます。

○6番（窪田みなみ君） 回答ありがとうございました。

今後、新たな取り組みとして、若い世代の皆さんが望まれる職種などの意識調査を実施する予定とのことでしたが、どの年代にどのような方法で、意識調査をされるのか、お伺いします。

○企画部長（宮田昭二君） お答えいたします。

これは新たな取り組みとして、現在考えているところでございまして、具体的な方策はこれからでございますが、各学校の生徒さん方がどのような将来の職種を望んでいるのか、職業を望んでいるのか、そういったものを調査いたしまして、そのデータを市、それから市内にあります事業所もしくは県等で共有いたしまして、将来的に先ほどからご質問のありました企業誘致等にもつなげていければというふうに考えておるわけでございます。

以上でございます。

○6番（窪田みなみ君） 回答ありがとうございます。

加治木工業生は高校を卒業した後、就職する人が多いです。始良市の企業に興味を持っている人も多いですが、今言ったように、始良市内にある企業の説明会はあまりないので、この若者議会を通して、もっと増えてくれればいいと思います。地元での就職の幅が広がればうれしいです。

○6番（濱弓場美来君） 2問目の質問をします。

先ほどの回答で保育士が、足りないとおっしゃっていましたが、どのくらい足りないのでしょうか。教えてください。

○保健福祉部長（竹下晃君） お答えいたします。

どれくらい足りないかという話ですけれども、ちょっとその需要に対してどれくらいの供給が必要なのかというところなので、具体的にはちょっとわかりません。申しわけありません。

○6番（濱弓場美来君） 始良市では、子供を育てやすい環境をつくっていきたい

と第2次総合計画で書いてありましたが、どのような環境が子供を育てやすい環境なのでしょうかお尋ねします。

○保健福祉部長（竹下晃君） お答えいたします。

まず妊産婦、赤ちゃんがおなかにいるお母さんから子育ての世代までですね、そこを十分ケアできるような形で今、保健福祉部のほうでは、そういう形で相談体制を整えております。

まず、赤ちゃんができたというところで相談ができる窓口の中に、今ここに「子育て便利帳」というのがありますけれども、これを配布しまして、これから生まれてくる、そして子育てをするという、そのステージの中でそれぞれ病院だったりとか公園だったりとかそういうところで紹介をしているというところでございます。まずこれが入門編で、それからまた行政等、相談窓口等に来ていただければ、つながっていただけるというふうに考えております。

以上です。

○6番（濱弓場美来君） 回答ありがとうございます。ケアについては、具体的にどういうケアを考えていますか、お尋ねします。

○保健福祉部長（竹下晃君） 非常に難しい質問だと思いますけれども、皆さん、それぞれ悩みだったりとか相談事が違いますので、それに寄り添うという形をモットーにですね、行政のほうでは一人一人の相談を真摯に受け止めて、それをちゃんと真心を込めて寄り添うという形で受けております。

以上です。

○6番（濱弓場美来君） ありがとうございます。最近では働く女性が増えていきます。私も就職希望なので、住みやすく、将来安心して子供が育てられる環境を始良市でつくってってください。本日は、ありがとうございました。

質問は以上で終わります。ありがとうございました。

○議長（本部優海君） これで6番、加治木工業高校 窪田みなみ議員、濱弓場美来議員の一般質問を終わります。

○議長（本部優海君） 次に、7番、蒲生高校 森木麗二議員、中野竜空議員の発言を許します。

○7番（森木麗二議員、中野竜空議員） 登壇

7番 蒲生高校 森木麗二です。中野竜空です。

さきに通告した「観光スポットの増加対策と観光客の宿泊場所の確保等について

て」と「小・中学生の地域行事への参加率増加の取り組みについて」の2問について質問いたします。

まず、1問目の「観光スポットの増加対策と観光客の宿泊場所の確保等について」、現在の始良市は他の市町村と比べて観光スポットが少なく、観光客に対する魅力が少ないと感じています。観光客数を増加させていくためには、始良市の自然を生かした観光スポットをつくり出していく必要があると思います。それと同時に、宿泊する場所を増やすことによっても、人の流れが変化していくと思います。現在、観光客を増加させるために行政としてどのような取り組みを行っているか。また、今後の計画について伺いたいです。

次に2問目の「小・中学生の地域行事への参加率増加の取り組みについて」、資料「始良市総合戦略 改訂版」の20ページに小・中学生の地域行事への参加率について記載されています。平成26年度を基準とした平成31年度の目標設定がされていますが、現状はどのようになっていますか。また、私もこれまで地域行事にあまり参加した経験がなく、地域の方々との交流の機会も多くありませんでした。私と同じような、若者も少なからずいると考えられます。そのような若者たちに対してどのような取り組みを考えているかについて伺いたいです。

以上で演壇からの質問を終わります。

○市長（湯元敏浩君） 登壇

蒲生高等学校2年 森木麗二さんからいただいた「観光スポットの増加対策と観光客の宿泊場所の確保等について」のご質問にお答えします。

始良市では、平成31年3月、本市における観光振興施策を総合的かつ計画的に推進するために、『第2次始良市観光おもてなし計画』を策定しました。そのなかで、始良市には、豊富な観光資源が存在すると捉えており、霧島・錦江湾国立公園「重富海岸」、日本一の巨樹「蒲生の大クス」、日本の滝百選「龍門滝」などが、自然を活かした観光スポットとして、外部に発信している代表地と言えますほかにも、歴史ある文化財や風情ある景勝地などが、市内各地に数多く点在しています。

今後も、これらの観光スポットをまち歩きや観光バスツアーなどの立ち寄りポイントとして活用を図るなど、着地型や体験型観光のPRに努めていきたいと考えています。

また、始良市では、昨年大河ドラマ「西郷どん」ブームに引き続き、今年は「島津義弘公没後400年記念」と「日本遺産認定」、来年は「市制10周年記念」や「かごしま国体」など、節目の年にあたることから、これらに関連したイベントを開催し、積極的な観光客誘致を図りたいと考えています。

次に、宿泊施設の現状ですが、ホテル・旅館などに類する施設は、市内8か所、およそ530人の収容能力をもっています。

今後も、既存宿泊施設の利用促進を図るとともに、新たな宿泊施設の建設・誘

致についても、引き続き調査と検討を行います。

○教育長（小倉寛恒君） **登壇**

蒲生高等学校2年 中野竜空さんからいただいた「小・中学生の地域行事への参加率増加の取り組みについて」のご質問にお答えします。

毎年4月に小学校6年生と中学校3年生を対象に実施される全国学力・学習状況調査の中で、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問に対し、始良市の小学校6年生は66.5パーセント、中学校3年生は44.3パーセントが参加していると答えています。

この回答結果からもわかるように、中学生になると地域行事への参加率が低くなっており、地域とのつながりの希薄化が進んでいます。

その背景としては、小学生においては、習い事やスポーツ少年団活動への参加、中学生においては、塾に通ったり、部活動に参加していることなどが挙げられます。

それぞれの地域には、子ども会をはじめとした異年齢集団での活動や、中・高校生を中心とするジュニア・リーダークラブの活動など、児童生徒の皆さんが、自主的に地域貢献・ボランティア活動や地域の方々との交流などに取り組む組織も形成されており、その他にも郷土芸能の保存伝承活動に取り組む団体もあります。

始良市教育委員会では、各団体への加入者の募集の支援や、若者リーダー育成事業の実施、子ども会からジュニア・リーダークラブへと継承される人材育成に取り組んでいます。

今後とも、地域で若者の参加が期待できる取り組みへの支援や情報発信、併せて地域において、参加する若者を受け入れる雰囲気づくりにも努めていきたいと考えています。

以上、お答えといたします。

○7番（森木麗二君） 先ほどの答弁で着地型や体験型観光のPRに努めていきたいとのことでしたが、体験型観光とは具体的にどのようなことですか。

○企画部次長兼商工観光課長（原田正巳君） 以前は、観光地、いわゆる目で見ても楽しむイベントでございましたけど、今の主流としましては、実際その場所に行っているいろんなことを体験して、そして身をもって思い出をつくっていくという形でございます。具体的に申し上げますと、ここ始良市でできることを言いますと、例えば農作業体験等がございます。子供さん方は今、学校の修学旅行等でもいろいろ体験されておりますけど、そういった形で物づくり体験とかいわゆるそういったものを地域特性のものを生かしたところの体験をさせるツアー、観光にも今取り組んでいるところでございます。

以上でございます。

○7番（中野竜空君） 先ほどの教育長からのご回答の中に、ジュニアリーダークラブというものがありましたが、ジュニアリーダークラブというものはどういうものなのでしょうか。説明をお願いします。

○教育長（小倉寛恒君） ジュニアリーダークラブは、基本的の中・高校生で構成されるわけございまして、始良市では「どんぐり」という名称でつくられている団体でありますけれども、特にさまざまな始良市内で行われるイベントなどにボランティアとして参加する、例えば、成人式にもそうでありますけれども、あるいは先輩たちの成人式に参加してお手伝いするとか、あるいは小・中学生が、いわゆる宿泊をして一週間過ごして北山の野外研修場から学校に通う。そういった取り組みなどに対して支援する、そういうことについて小・中高校生の皆さんがお手伝いするという団体であります。まさにボランティア活動を行う団体ということで、現在16名で活動しておりますけれども、今後ますます増やしていきたいというふうに考えているところでございます。

○7番（中野竜空君） 丁寧な回答ありがとうございました。これも先ほど教育長からのご回答の中にあつたのですが、地域で若者が期待できる取り組みへの支援や情報発信をしているとのことでしたが、自分の現在住んでいる地域では、その情報を回覧板などでしか見ることができない状況にあります。何かもっと自分たちのような若者が、簡単に地域の行事に参加するにあたって情報を知ることではないのでしょうか。

○教育長（小倉寛恒君） それぞれ地域に、さまざまな活動はあると思います。身近には、例えば小さなことでも自分自身が積極的に参加する。先ほどの錦江湾クリーンアップ作戦というのがありましたけど、そういったごみ拾いから始めるということも必要なことだと思います。そういうジュニアリーダークラブに加入しなくてもですね、あるいはほかのいろんな学校の例えば体育祭にお手伝いに行くとか、そういうことも一つの地域への参加になってくるわけであります。まず一歩踏み出してそれぞれ参加していくということは、自分の人格形成に大いに役立つと思いますので、そういうことに取り組んでいただければと思います。大々的にアナウンスしてそれに参加していくというより、自分自身で地域でいろいろ催しが行われる場合に、積極的に取り組んでいただければ、それは一番自分のためになるんだというふうに確信するところでございます。

○7番（中野竜空君） 丁寧な回答ありがとうございました。私自身本当に、小・中学校時代地域の行事に参加すること自体が少なかったもので、今さらであります

が、地域の行事であったり、そういうものに時間を見つけて参加できたらいいと思っています。先ほど森木議員からもあったように、観光場所の増加だったり、若者が地域の人たちと行事を一緒に楽しんだりすることは、今後の始良市にとっても、とても有効的なものになると思うので、より一層よくなることを期待しています。

これで質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（本部優海君） これで7番、蒲生高校 森木麗二議員、中野竜空議員の一般質問を終わります。ここで、しばらく休憩します。

（午前10時59分 休憩）

○議長（本部優海君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

（午前11時03分 開議）

○議長（本部優海君） 次に、8番、加治木高校 小川翔大議員、小田すみれ議員の発言を許します。

○8番（小川翔大君、小田すみれ君） **登壇**

8番 加治木高校の小川翔大です。小田すみれです。

先ほど通告しました。「プールについて」と「公共の場のゴミ箱設置について」です。

まず1問目は「プールについて」、始良市には一つもプールがないので市民プールなどを設置する予定はないのですか。もっと多くの人が始良市を訪れてくれると思います。

次に、2問目の「公共の場のゴミ箱設置について」です。私は、歩道や植え込みにごみが捨てられているのを多く見かけます。ゴミ箱が

あれば、わざわざ歩道等にごみを捨てる人が減り景観の改善につながると思うので、ゴミ箱を設置してほしいです。

以上で演壇からの、質問を終わります。

○市長（湯元敏浩君） **登壇**

加治木高等学校2年 小川翔大さんからいただいた「プールについて」のご質問にお答えします。

プールは、設置要望が多い施設のひとつで、特に、一年中利用が可能な「温水プール」の要望が多く寄せられています。

始良市としては、出来る限り市民の皆様からの要望にお応えしたいと考えていますが、市の予算にも限りがあります。現在、大きな予算を必要とする事業として「複合新庁舎の建設」があり、それに向けた準備を進めています。

熊本地震では、地方自治体の庁舎も被災し、災害復旧の司令塔としての役割を果せなくなった事態が発生しました。

現在の始良市役所の始良・加治木・蒲生の3庁舎は、いずれも建築後50年以上経過しており、耐震性能に不安がありますので、まずは庁舎の整備を優先して手がけることにしました。

プールの設置は、市民の健康増進はもとより、始良市を訪れていただくきっかけになると考えますので、設置費用や維持・管理経費について調査を行うなど、引き続き研究を進めていきます。

加治木高等学校2年 小田すみれさんからいただいた「公共の場のごみ箱設置について」のご質問にお答えします。

始良市では、道路や市の施設など、公共の場では、来場者や利用者にごみを持ち帰るようお願いしています。

この理由として、安全面から不審物やたばこの吸殻を入れられる懸念があり、また、衛生面からごみ箱のまわりにごみが散乱したり、家庭ごみが多量に持ち込まれたりするなど、さらには、カラスや猫などの野生動物がごみをあさり、ごみが散乱するなどの問題もあります。

このような状況の中で、ごみ箱を設置しないことは、始良市に限らず、全国的な傾向となっています。

「ごみ」は、ごみ箱に捨ててしまえば単なる「ごみ」ですが、家庭に持ち帰り、分別することで「資源」となり、その資源を再使用、再生利用することで、循環型社会の構築につながるものと考え、始良市では混ぜれば「ごみ」、分ければ「資源」としてごみの減量化、資源化の取り組みを進めています。

また、始良市では、「始良市環境美化条例」を定め、市、市民、事業者が一体となって、環境美化を推進しています。

しかし、ごみのポイ捨ては、個人のモラルによるところが大きいと考えています。

ごみは資源にもなるという意識を深めるとともに、市民の皆様の環境美化に対する意識の更なる高揚を図り、ごみ箱がなくてもごみのポイ捨てのない、住みよいまちづくりに引き続き取り組んでいきます。

以上、お答えといたします。

○8番（小川翔大君） プールについてですが、複合新庁舎の建設を優先するということでした。これの優先はすごく納得できる内容だったのですが、プールの設置の優先順位というのは、市としてはどのあたりになるのでしょうか。新庁舎が一番優先ならば、それは第二なのか。まだ、プールよりも優先すべきものがあるのかということについて知りたいと思っています。よろしくお願いします。

○企画部次長兼企画政策課長（松林洋一君） プールにつきましては、その設置の

必要性という意味ではですね、十分認識をいたしているところでございますが、設置についてはかなり大きな費用も要する。そして、維持管理費もですね、相当額の経費が必要といったようなこともございます。したがってですね、必要性という意味では感じておりますが、設置に向けてはですね、慎重な検討が必要だろうなというふうに思っているところでございます。

以上です。

○8番（小川翔大君） 予算が足りないということだったんですけど、その予算のために、私たち市民が起こせる行動っていうのは何かありますか。

○企画部長（宮田昭二君） 今回の次長のほうから答弁申し上げましたけれども、プールに限らず、市長答弁にもありましたが、さまざまなご要望を市民の方々からお受けしております。したがって、方法としましては、議会を通じての要望書なり、それから、署名活動が妥当なのかどうかわかりませんが、そういった方法もあろうかと思っております。それと、財政の面で次長のほうが答弁いたしましたが、始良市としましては、県と鹿児島市、それから第2の都市であります霧島市と併設しております。ということは、市は7万7千の都市でありますけれども、大都市ではございません。したがって、全てが始良市の中で完結するとは思っておりません。その中で広域連携という考えが浮かんでまいります。したがって、市に無い施設につきましても、霧島市、それから鹿児島市等の施設をご利用いただくことによりまして、そういった予算的なものもクリアしていくということになるかと思っております。

以上でございます。

○8番（小川翔大君） 丁寧なご回答ありがとうございました。

○8番（小田すみれ君） 先ほどの答弁では、市民の環境美化に対する意識の高揚を図るとありますが、まず、ごみのポイ捨ては以前から問題になっていたと思います。私は始良市に20年以上住んでいますが、昔から現在まで大きく改善されたようには思いません。そこで市は今までのどのような対策をとってきたのか。これからどのような対策をとるのか詳しくお願いします。

○市民生活部長（福元義行君） 始良市では、「始良市環境美化条例」を定めまして、市、市民、事業者が一体となって環境の美化に取り組んでおります。その中で、自治会等におきまして、地域の方々と一緒に「始らぶクリーン作戦」を年2回実施しておりますが、地域の自治会等と一緒に清掃活動、あるいは先ほどお話が出ましたけど「錦江湾クリーンアップ作戦」などを実施しながら、環境美化に対する醸成を図っているところでございます。

以上でございます。

- 8番（小田すみれ君） 回答ありがとうございます。私が通う加治木高校では、ごみの分別を徹底して行っています。ですがその中にも適当にごみを捨てて係を困らせる人もいます。人の意識を変えるということはとても難しいことだと思いますが、効果的な方法がないか、生徒会内で話し合ってみたいと思います。
- 以上で質問を終わります。ありがとうございました。

- 議長（本部優海君） これで8番、加治木高校 小川翔大議員、小田すみれ議員の一般質問を終わります。

- 議長（本部優海君） 次に、9番 龍桜高校 古川梨織議員、宮脇ななせ議員の発言を許します。

- 9番（古川梨織君、宮脇ななせ君） 登壇

9番 龍桜高等学校の古川梨織です。宮脇ななせです。

先に通告した「人口は増加しているが、始良市で働く人が少ないことについて」、「DV・児童虐待等早期発見、相談体制の充実について」の2問について質問いたします。

まず、1問目の「人口は増加しているが、始良市で働く人が少ないことについて」、始良市は住みよいまちとして人口が増えているが、鹿児島市や霧島市で働く人が多いと考えています。そこで、始良市の働ける環境として大手企業の誘致や高齢化社会に対しての病院施設の環境づくりはどう考えていますか、お尋ねいたします。

次に2問目の「DV・児童虐待等早期発見、相談体制の充実について」、いきいきと暮らせる健康づくり、地域づくり推進の具体的な施策の中にDV・児童虐待等早期発見、相談体制の充実とあります。最近、ニュースでDVや児童虐待のことが取り上げられているのはよく見かけます。実際、始良市は今、DV・児童虐待等早期発見、相談体制の充実のために何を行っているのですか、お尋ねいたします。

以上で演壇からの質問を終わります。

- 市長（湯元敏浩君） 登壇

龍桜高等学校3年 古川梨織さんからいただいた「人口は増加しているが、始良市で働く人が少ないことについて」のご質問にお答えします。

始良市は、鹿児島県本土のほぼ中央部に位置しているという利便性もあり、これまで鹿児島市のベッドタウンとして人口の増加がみられた“まち”であります。直近の国勢調査により始良市の昼と夜の人口を比較しますと、夜間のおよそ7万5,000人に対し、昼間はおよそ6万9千人と、6,000人少なくなっています。

す。

これは、通勤や通学で始良市に来られる方々がおよそ8千人であるのに対し、市外へ出られる方々が1万4,000人となっていることによるものであります。このため、企業やショッピングセンターの誘致など、働く場の確保を進めており、商工業の従事者数は、平成24年のおよそ8,000人から、平成30年には9,000人を超え、およそ1,000人増加しています。

大きな事業所では、およそ700人を雇用する企業の誘致もあります。また、病院を含む医療・福祉施設は、平成21年のおよそ200施設、従事者数4,300人から、平成28年にはおよそ300施設、6,500人に増加しています。

行政の果たす役割は、環境の整備であると考えていますので、今後とも、始良市への進出を検討していただけるように、インフラ整備を進めるとともに、優遇制度の継続など、“魅力あるまちづくり”に努めます。

龍桜高等学校3年 宮脇ななせさんからいただいた「DV・児童虐待等早期発見、相談体制の充実について」のご質問にお答えします。

まず、「DVの早期発見、相談支援体制について」は、相談の被害者を発見しやすい立場にある消防や警察・医療機関など、身近な相談先である民生委員・児童委員、人権擁護委員などとの連携を図り、早期発見に努めています。

また、相談窓口一覧カードの配置による情報提供や、教育機関への啓発用リーフレットの配布や講座を実施し、啓発と早期発見 及び 対応に努めています。

相談体制の充実については、安心して相談できる体制として、配偶者暴力相談支援センターを設置しています。相談には専門の相談員が対応し、警察などの関係機関との連携を図りながら、安全を重視した体制で、DV防止とその救済に向けた支援を行っています。

次に、「児童虐待の早期発見、相談体制について」は、子どもの養育や親子関係など、子どもやその家庭の様々な相談に対応するために、本年4月に始良市子ども相談支援センター「あいぴあ」を開設しました。

「あいぴあ」では、社会福祉士や児童福祉司・保健師などの専門職員が、関係機関と連携を図りながら、相談支援に応じています。

また、児童虐待の予防を図るために、民生委員や保育園・教育関係者など、子どもに関わる関係機関の方々と連携強化についての会議や研修会などを通して、地域で子どもを見守る体制づくりに取り組んでいます。

これからも、広報紙や講演会による啓発、地域や関係機関などとの更なる連携の強化により、DVや児童虐待に至る前の相談支援の充実に取り組んでいきます。

以上、お答えといたします。

○9番（古川梨織君） 始良市に住んで始良市で働いている方はどれくらいいらっしゃるのですか。

○**企画部次長兼企画政策課長（松林洋一君）** 手元に詳細な資料を持ち合わせていないところがございますので、後もって資料でお渡しいたしたいと思います。

○**9番（古川梨織君）** ありがとうございます。始良市はイオンタウンができたことでにぎわっていますが、工場などの誘致はどうお考えですか。工場は働く人や、始良市に住む人が増加し、工場で働く人が近くの店で買い物やご飯を食べることでお店が賑わうと思いますが、どう思いますか。

○**企画部長（宮田昭二君）** お答えいたします。いわゆる企業が参りますと、そこに関連した事業所も当然また貼り付いてまいります。したがって、議員ご指摘のとおり、単なる給料だけではなくていろんな消費が回ってまいりますので、市の経済については大きな影響があると考えております。
以上でございます。

○**企画部次長兼企画政策課長（松林洋一君）** さきの質問の資料がございましたので、お答えいたしたいと思います。本市に在住する従業者3万3000人のうち、本市で就業していらっしゃる方が約2万1000人ということに資料としてはなっているようでございます。

○**9番（古川梨織君）** ありがとうございます。これで1問目の質問を終わります。

○**9番（宮脇ななせ君）** DV虐待の早期発見のための対策や相談しやすい環境づくりを行っていることは理解できました。実際、今年度・昨年度の始良市のDV児童虐待の実態はどのようになっているのですか、お尋ねします。

○**市民生活部次長兼男女共同参画課長（吉永恵子君）** DVにつきましては、平成30年度におきましては、暴力の相談というのが54件ございました。
以上です。

○**保健福祉部次長兼子ども政策課長（鮫島美保子君）** 児童虐待の実績についてお答えいたします。平成30年度に住民の方からいろいろなご相談いただいて、308件のご相談、実人員として308件のご相談をいただいているんですけれども、その中で市で児童虐待という認定をした件数は16件でございます。
以上でございます。

○**9番（宮脇ななせ君）** いろいろな対策や環境づくりがあるのですが、効果が出ているのですか。

○保健福祉部次長兼子ども政策課長（鮫島美保子君） 先ほど市長の答弁の中でもありましたが、拠点となるセンターを設置いたしました。そちらのほうでいろいろな予防活動であったり、人と人をつなぐネットワーク会議であったり、関係機関の方々のお力添えをいただくネットワーク会議であったりといろいろな予防対策を今、実施しておりますが、やはりそういう中でいろいろな方々からご相談をいただいたり、あそこにちょっと気になる方がいらっしゃるのだけれどもとか、早期の段階でご相談をいただいているという意味では、非常に効果が上がってきているというふうに評価をいたしております。

以上でございます。

○9番（宮脇ななせ君） 本年4月に「あいぴあ」を開設したと言われていましたが、「あいぴあ」のことについて知っている人は数少ないと思われまます。これから「あいぴあ」を始良市にどのようにして広めていこうとお考えですか。

○保健福祉部次長兼子ども政策課長（鮫島美保子君） 「あいぴあ」を今年の4月に開設をいたしたところではございますが、今、関係機関を中心にいたしまして、いろいろなPR活動をさせていただいております。また、市のホームページであったりとか、広報紙を活用して住民の方にも啓発活動をさせていただいているところですが、まだなかなか全ての住民の方々にというところまではたどり着いておりませんが、いろいろな関係機関の方、それからいろいろな先ほど申し上げました広報紙等を活用しまして、段階的にいろいろな方を通じて啓発できたらいいなというふうに考えております。是非また議員の方々にもお力をいただければと思います。

よろしく願いいたします。

○9番（宮脇ななせ君） 「あいぴあ」について理解ができました。これからも始良市がよりよい市になるように、私たちにできることを精いっぱいしていきたいと思ひます。

これで質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（本部優海君） これで9番龍桜高校 古川梨織議員、宮脇ななせ議員の一般質問を終わります。

○議長（本部優海君） これをもって、全ての一般質問を終了いたしました。

○議長（本部優海君） 次に日程第5、小倉教育長から講評をいただきます。

○教育長（小倉寛恒君）

登壇

本日は、若者議会議員の皆さん、お疲れさまでした。不慣れな環境の中で、大変だったろうと思いますけれども、質問された皆さんの堂々とした、はきはきとした態度、あるいは、議長を務めた窪田議長、本部議長の初めてとは思えない議事進行に感銘を受けたところでございます。

今回の皆さん方から中学生、高校生を代表して始良市のあり方について質問をしていただき、若者の目線で捉えた始良市の課題が明らかになったと考えております。自然災害への備え、若者の将来の職業と家庭支援、魅力的なまちづくりなど、一人一人がみずからの生活を振り返るとともに市全体の課題を明確につかんでいる様子が伺えました。そこには郷土始良市に対する強い思いと、それから将来への展望について思いをはせているということ、強く感じるところでございました。

始良市は鹿児島県内で最も住みやすいまちという評価を得ておりまして、人口も県内で唯一、増加傾向にあります。町なかには大型商業施設が建設され、交通網が整備され、町には活気があふれています。その一方で、今回質問していただいたような防災の問題、福祉のあり方やさまざまな施設の整備環境を取り巻く問題、そして、ソフト面における仕組みづくりなど、まだまだ課題のあることも事実であります。行政は、こうした課題に議員の皆さんとともに協力しながらよりよいまちづくり、人づくりのために努めているところでございます。

さて、議会制民主主義の我が国においては選挙において議員が市民から選ばれて、選ばれた議員は市民からの負託に応えるべく、議会において行政を進めていることや、あるいは今後進めていくべき姿、予算の使い方などチェック機能を持っています。このように、みんなで話し合い、物事を決定していくという仕組みは、国はもとより各都道府県あるいは各市町村で行われていることであります。私はまだ現職の高等学校の教員のころですね、生徒に対して、議会制民主主義について16世紀のイタリアの哲学者、ピコ・デラ・ミランドラという人の書いた「人間の尊厳」という著書の一節を引用して説明していました。その中には「人間は虎やライオンのような相手を倒す鋭い爪や牙を持ってない。また、亀のように相手の攻撃を守るような硬い甲羅も持ってない。また、チーターのように時速70キロで走るそういった脚力もない。そしてまた、鷲や鷹のように2キロ位先を見通す視力も持ち合わせていない。神が人間に与えた権利っていうのは言葉を介して多くの人と住みよい社会をつくる、この権利のみを与えた」と書いてあります。これがまさに議会制民主主義の普遍的な真理でありまして、これは市町村であろうと、都道府県であろうと、国であろうと全く変わらない。あるいは国際社会においても全く同様に考えられることだろうと。

皆さん方も、既に高校3年生の方では18歳で選挙権を得た人もいます。これからですね、やはり人間の尊厳として、こういった言葉を介して話し合いで物事を決定していくという、こういった普遍的な心理を心に刻んで、これか

らも立派な社会人として成長していかれることを心から期待するものであります。

最後になりますけれども、今回の若者議会にご協力いただきました各学校の先生方や保護者の皆様に厚くお礼申し上げますとともに、議員を務めていただいた中学生、高校生の皆さんのこれからのよりよい成長を心から期待し講評といたします。

今日は、ご苦労さまでした。

○議長（本部優海君） ありがとうございます。

次に、**森川市議会議長**から**ごあいさつ**をいただきます。

○市議会議長（森川和美君） 登壇

ただいま紹介をいただきました始良市の市議会議長の森川でございます。議会を代表して一言申し上げたいと思います。

若者議会の議員の皆さん、大変に御苦労さまでございました。素晴らしい内容でございましたし、再質問においては鋭い質問もございました。この議場内、あるいはまた、別の部屋で始良市の市議会議員がこの様子を聞いておりましたけれども、刺激や参考になったと考えております。

余談になりますが、先ほど教育長からもありましたように、3年生の皆さんは選挙権があります。若者の投票率は、6割以上の方が投票に行っていないというデータがあるわけですが、どうぞこれを機会に政治が遠いものだと考えずに、あるいは一票入れても何にも関係はないということではなくて、皆さんの身の回りのものは全て政治が関わっておるんですね。消費税、高速道路の料金、地方においては健康保険料、あるいは公共施設の使用料、道路拡幅等々のものは政治が最終的決定をするわけです。どうぞこれを機会に、ひとつ政治に関心を持っていただいて、友達同士であるいは家族で年に1回、2回、こういったもののお話し合いをしていただきながら成長していただければと思います。そして、人前で自分の思い、あるいは考えを堂々と話ができる、そういうふうな人になっていただければと思います。

最後になりましたが、これからもひとつ元気で勉学に励み、そして人生を歩いていただければと思っております。

簡単でございますが挨拶とさせていただきます。本日はご苦労さまでした。

○議長（本部優海君） ありがとうございます。ここで少しお時間をいただき、若者議員を代表してお礼の言葉を述べさせていただきます。

本日は、このような機会を与えてくださりありがとうございます。また、長時間にわたり、私たちの質問に真剣にお答えくださり、本当にありがとうございました。

僕は、始良市の若者議会を通して、政治や身の回りには気づかなかった問題点

をたくさん知ることができました。この場で議員として疑問に思ったことを相手に伝えるということも大事なことだなと思いました。しかし、僕の同じクラスで若者議会の話をしたら、「若者議会って何。とても面倒くさそう、だるそう。」という声が出てしまいました。僕以外の生徒にはこのような声が出てしまったのに、このような政治にあまり興味がない生徒がまだ現状にいるということも、僕たちは知っています。だから、こうした若者議会が、これからもずっと先にずっと開催されていき、始良市の人口が増えるだけでなく政治に興味がある人口が、若い世代から御年配の方々まで増えたらいいかなと思います。

これからも暮らしの中のさまざまなことに興味を持ち、私たち中学生・高校生も大人の皆さんと一緒に考え、行動していきたいです。

本日はありがとうございました。

○議長（本部優海君） 以上で、本日の議事日程は全部終了しました。

したがって、本日の会議を閉じ、令和元年度始良市若者議会を閉会します。

（午後11時38分閉会）

以上、記録の内容が正確であることを証するためにここに署名する。

始良市若者議会議長（前半）

窪田 みなみ

始良市若者議会議長（後半）

本部優希

会議録署名議員

森木 麗二

会議録署名議員

中野 竜空